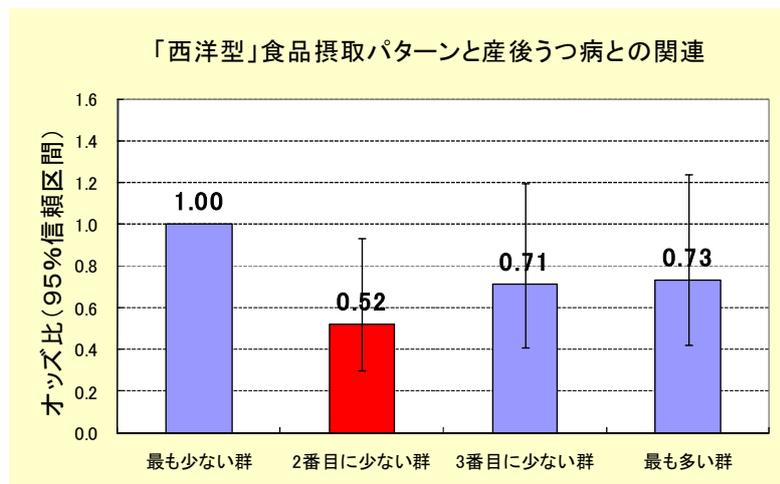


大阪母子保健研究 2-9 ヶ月時追跡データの結果 食品摂取パターンと産後うつ病との関連

背景：栄養素や食品と産後うつ病との関連が指摘されています。習慣的な食品の摂取状況を総合的にとたえる食品摂取パターンと産後うつ病との関連を評価することは意義があるかもしれません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査と生後 2-9 ヶ月時の第 1 回追跡調査に参加した 865 名を対象としました。エディンバラ産後うつ病評価尺度により、30 点中 9 点以上を産後うつ病有りと定義しました。年齢、妊娠週、子数、喫煙、家族構成、職業、年収、教育歴、過去 1 ヶ月の食事変容、ベースライン時の季節、BMI、追跡調査時期、妊娠中の医学的異常、子供の性別、出生時体重を交絡因子として補正しました。33 食品群から因子分析により「健康型」、「西洋型」、「日本型」の 3 タイプの食品摂取パターンが導き出されました。

結果：865 名中、121 名が産後うつ病有りと判定されました。「健康型」及び「日本型」の食品摂取パターンはいずれも産後うつ病と統計学的に有意な関連を認めませんでした。「西洋型」食品摂取パターンを 4 等分して解析すると、最も低い群に比較して、



2 番目に少ない群で産後うつ病のリスクが統計学的に有意に低下しました。最も多い群は統計学的に有意ではなく、全体として逆 J 字型の関連を認めました。

結論：食品摂取パターンと産後うつ病の間にはっきりとした関連は認められませんでした。

出典：Okubo H, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Murakami K, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group. Dietary patterns during pregnancy and the risk of postpartum depression in Japan: the Osaka Maternal and Child Health Study. Br J Nutr. 2011; 105: 1251-1257.